

MEDISEND super 使用説明書 (MEDISEND super Instruction Manual)

目次

- 1.0 使用説明 (Instruction manual)
 - 1.1 基本操作と適用 (Basic operation and application)
 - 1.2 装置概要 (Equipment overview)
 - 1.2.1 機能と関連性 (Functions and connection possibilities)
 - 1.3 機能設定 (Functional setting)
 - 1.3.1 スイッチの切換え／蓄電池の充電 (Switching on and off / recharging the accumulator)
 - 1.3.2 機能ボタン (Function push buttons)
 - 1.3.2.1 手動／自動 (MAN/AUTO)
 - 1.3.2.3 変調 (MODULATION)
 - 1.3.2.3 強度 (INTENSITY)
 - 1.3.2.4 周波数域 (RANGE)
 - 1.3.2.5 スタート／主動 (START/ACTIVE)
 - 1.4 療法形式 (Type of therapy)
 - 1.4.1 自動周波数走査－基本療法 (Automatic frequency scan－basic therapy)
 - 1.4.2 単一周波数設定 (Single frequency setting)
 - 1.5 治療用具 (Treatment devices)
 - 1.5.1 マグネット-ループ (Magneto-loop)
- 2.0 技術的詳細 (Technical details)
 - 2.1 納入品の保証範囲 (Guarantee-scope of deliver)
 - 2.2 使用上の注意 (Precautionary measures)
 - 2.3 機能点検 (Functional checks)
- 3.0 治療計画－機材の設定 (Therapy plan－equipment settings)
 - 3.1 治療計画／記録 (Therapy plan for own entries / documentation)
- 4.0 自然磁界 (Natural magnetic fields)
 - 4.1 シューマン周波数 (Schumann frequencies)
 - 4.2 地磁気周波数 (Geomagnetic frequencies)
 - 4.3 太陽光周波数 (Solar frequencies)
 - 4.4 バイオエネルギー振動は予防効果を有し、自然治癒を活性化する (Bioenergetic vibrations have preventive effects and activate the self-healing)

1.0 使用説明 (Instruction manual)

1.1 基本操作と適用 (Basic operation and application)

MEDISEND super は生物物理学的知見に基づいており、即ち、微弱、迅速な低周波及び高周波域を含む各種電磁界(electromagnetic field)を利用している。

本装置はシューマン周波数と地磁気周波数とを正しく組み合わせている唯一の磁界装置である (陰-陽平衡)。

MEDISEND super は予防、再生およびリハビリテーションに対して広い治療の可能性をもたらす。

従って、**MEDISEND super** は

- ◆ 一般医学、獣医学、自然療法、ホリスティック薬物療法、スポーツ医学、理学療法、ならびにスポーツ理学療法の分野への優れた適用が見られ、
- ◆ 応用範囲が広いことから、医療行為、臨床や患者の家庭での処置などで多様な利用ができ、
- ◆ 内因性および外因性情報療法と共に、シューマン周波数と地磁気周波数 (生物に必要な 64 種の微量元素を含む) の両者を同時に組合わせた唯一の治療用装置である。

1.2 装置概要 (Equipment overview)

1.2.1 機能と関連性 (Functions and connection possibilities)

次図は装置の概要であり、**MEDISEND super** の機能の特性を示している。

図：装置の概要／機能特性と接続

A = 磁気出力 / “OUTPUT” : マグネトループを接続するソケット

B = 単一周波数設定用キザミ付きビス

C = 周波数設定作用ボタン - “RANGE”

D = 磁気調節作用ボタン - “INTENSITY”

E = “MODULATION(変調)” 作用ボタン : OFF=CONST / LED 光

ON=5s/5s / LED 光

F = 自動周波数走査 “AUTO” または単一周波数走査 “MAN” 作用ボタン

J = 周波数ディスプレイ (設定した周波数を表示)

K = “ACTIVE” LED -ディスプレイおよび “START” ボタン

M, N=2 種のピン—黄色と黒色のソケット挿込み部 / “INPUT” ハンディ電極 MEDICUP
用

O = ジャッキソケット “INPUT”

P = “ON/OFF” 用スイッチボタン

1.3 機能設定 (Functional setting)

以下、各節毎に MEDISEND super の機能設定を記す。

1.3.1 スwitchの切换え / 蓄電池の充電 (Switching on and off / recharging the

装置後部に次の主要接続部が設けられている。

- 充電用ソケット / 6V 蓄電池の自動充電用接続部 : “CHARGER”
- フューズ : 1 アンペア (必要に応じてねじ回しで新しいフューズを付ける (スペア用フューズ 2 個が用意されている))
- オン・オフ用あるいは自動充電用メインスイッチ (“OPERATE/CHARGE”)

操作準備—スイッチ入力と蓄電池の充電

自動充電部を介して装置を主電源に接続する (CHARGING SOCKET/220V)。スイッチを “CHARGE” 側にすれば蓄電池は自動的に充電される。蓄電池が充電されている間は赤色の LED 光が点灯する。

MEDISEND super のメインスイッチを “OPERATE” 側にするとスイッチオンとなる。作動 / 治療中は主電源 (supply main) を遮断する !

装置をスイッチオンにすると主電源は自動的に遮断される。即ち、外部充電器はスイッチオフとなる (これは治療中でも当然見られる)。

注意! AMS 社製の変圧器と電池用充電器のみを使用すること。

蓄電池の再充電

装置を治療用に使用していない場合は常にスイッチを切る (メインスイッチを “CHARGE” 側にする)。これにより蓄電池は自動的に充電される。このために装置は常時主電源に接続しておく。蓄電池が完全に放電しないように注意する。

年 2 回は装置内の蓄電池を十分に放電させることを奨める。但し、完全に放電してはならない。この操作により蓄電池の寿命を延長させることができる。

蓄電池を完全に充電するには7時間を要するから、充電は夜間を通して行う。長時間使用しない場合に充電しても良い。蓄電池の再充電はおよそ80回は行える。

1. 装置のスイッチをオンにする：装置の“ON/OFF”ボタンを押す。背面のメインスイッチは“OPERATE”側にしておく。スイッチをオンにすると装置は自動点検を行い、全てのLEDランプが点灯し、ディスプレイにはソフトウェアのバージョンナンバーが表示され、表示音が鳴る。(注意：点検中は赤色の“BATT”LED灯が点灯する！これは蓄電池が完全に放電しているということを示すものではない！単にLED機能をチェックしているだけである。
2. 装置のスイッチをオフにする：“ON/OFF”ボタンを短時間押すと装置のスイッチはオフとなる(約1秒以上)。(注意：誤操作によるスイッチオフを避けるため、意図的にボタンを長めに押すようにしてある)

装置のスイッチをオンにした後に基本的な設定がセットされる；次の緑色のLEDランプが点灯する：

MAN/AUTO	MAN
MODULATION	OFF (=CONST)
MAGNETIC FIELD STRENGTH(磁界強度)	1 (INTENSITY (強度))
FREQUENCY RANGE(周波数域)	1-1000 (RANGE)
START	スタートしていない (ACTIVE は点灯していない)

青色の作動ボタンを押すことにより個別のプログラムが設定できる；治療用ループあるいはその他の付属品をそれぞれ接続する。治療用エレメントセッティング (3.0 参照)

(治療用エレメントの正しい接続を含め)セッティングを正しく行なった後に“START”ボタンを押す。

“STRAT”ボタンを押すと出力が稼動し、接続した治療用エレメント(例えば治療用ループ)を通じて磁力が放出される。青色のLEDが点灯しているのは出力が稼動していることを示す。さらに、LEDは選択した周波数の速さでも点灯する。

注意：変調(modulation)スイッチをオンにした場合、変調が中断している時はLED“ACTIVE”は点灯しない。

7.5分後には音響音が聞こえる。音響音は長さ0.8秒で、0.4秒間隔で5回である。この

間はディスプレイと LED “ACTIVE” は作動しない。さらにこの 7.5 分後には再度同じ音響音が鳴り、装置は自動的にスイッチがオフとなる。

1.3.2 機能ボタン (Function push buttons)

装置のスイッチをオンにしたら、治療用の設定を選ぶ。左から右方向に機能に対応する“青色卵型”のボタンを押すことにより以下のセッティングを選択する。

- “MAN/AUTO” (手動/自動)
- “MODULATION” (変調)
- “INTENSITY” (強度)
- “RANGE” (周波数域)

1.3.2.1 手動/自動 (MAN/AUTO)

“MAN/AUTO” (手動/自動) ボタンを押すことにより次の条件が選択できる。

- AUTO : 周波数自動走査 (基本プログラム)

下方向へ 1000Hz から 1Hz まで あるいは
100Hz から 1Hz まで

または

- MAN : 単一周波数設定。 単一周波数は装置右側のキザミ付きビスにより設定する。

高周波数の設定=ビスを時計方向に回す。低周波数の設定=ビスを反時計方向に回す。

周波数ディスプレイには自動走査周波数あるいは個々の単一周波数が示される。作動している設定は 2 個の緑色 LED MAN および AUTO ランプで示される。ディスプレイには磁気インパルスの反復数(repetition rate)を示す。全ての upper waves はほぼ同じ強度で放出される (最高 MHz まで)

1.3.2.3 変調 (MODULATION)

“MODULATION” (変調) ボタンを押すことにより次の条件が選択できる。

- MODULATION オフ = CONST(一定)

または

- MODULATION オン = 5s/5s

MODULATION オンとは 5 秒間の発信信号事に 5 秒間中断し、この間装置は信号を発信しない。

これは生体に対する注意信号である。

この中断の間は LED “ACTIVE” は点灯しない。

1.3.2.3 強度 (INTENSITY)

“INTENSITY” (強度) ボタンを押すことにより次の条件が選択できる。

— Strength (強度) : 1

または

— Strength (強度) : 10

Strength 10 は通常の設定である (約 1m の処置用ループの生理学的間隔)。Strength 1 (約 30cm の処置用ループの生理学的間隔) は頻繁に選択されることはなく、ペット動物、小動物あるいは頭部の処置の場合に限られる。

1.3.2.4 周波数域 (RANGE)

“RANGE” (周波数域) ボタンを押すことにより次の条件が選択できる。

— 1 から 100Hz

または

— 1 から 1000Hz

下段の場合は 1 から 1000Hz までの個別の単一周波数を正確に設定できる。

例：“1-1000” Hz ボタンを押す。単一周波数 (例えば 730Hz) を設定する。その後で “1-100” Hz ボタンを押すと周波数 73.0Hz を設定できる。

1.3.2.5 スタート/作動 (START/ACTIVE)

計画に合致した設定をした後、処置用エレメントを接続し治療を開始する。“START” ボタンを押す。“ACTIVE” LED ランプが点灯する。

治療は 15 分間行う。通常、治療は 2 段階で行う。7.5 分後に長さ 0.8 秒、0.4 秒間隔で 5 回の音響信号が鳴る。この間はディスプレイと “ACTIVE” LED 灯は作動しない。

ここで処置用ループを回転し (電極を逆にする)、必要があれば周波数を “ステップ 2” に変更する (3.0 治療計画—装置の設定を参照)。

さらにその 7.5 分後に再度同じ連続音響信号が鳴り、装置のスイッチが自動的にオフとなる。

継続して 20 分間どのボタンも押さなければ、装置のスイッチは自動的にオフとなり、全ての LED 灯は作動しなくなる。

1.4 療法形式 (Type of therapy)

基本的に次の2種の治療形式が選択できる。

—自動周波数走査—基本治療 (basic therapy)

または

—単一周波数設定

2種の治療形式は同時に組合わせて、一つの治療ユニットに実施することが出来る。第1段階を基本治療(7.5分/音響信号)で始め、次いで第2段階として適切な単一周波数により治療を続ける。

1.4.1 自動周波数走査—基本療法 (Automatic frequency scan—basic therapy)

基本治療/自動周波数走査は最も大きな効果が期待できる普遍的な広域療法である。しかし、多くの治療ユニット増やす必要がある。

基本治療は下記の作用ボタンを用いて設定する。

1. MAN/AUTO = AUTO

2. Modulation off = CONSTANT (CONST)

3. Strength = Intensity “10”

4. RANGE = 1 to 1000 (Hz)

(“AUTO”モードでは周波数調節機能は作動しない)

1.4.2 単一周波数設定 (Single frequency setting)

MAN/AUTOボタンにより単一周波数が選択できる(“MAN/AUTO”コントロールLED点灯)。患者特異的治療処置に応じて、キザミ付きビスにより周波数ディスプレイ上に単一周波数を設定する。後刻、再調整することにより個々の患者に適した単一周波数を最適化することができる。これは生理学的検査の支援によりセラピストが行う。これにより治療ユニット数を減らすことができる。

1.5 治療用具 (Treatment devices)

多様な治療用具を有するMEDISEND superにより、セラピストが患者に適した特徴のある個別の治療計画を開発でき、それによって最適な実際の治療を行う可能性がもたらされる。特別の治療用具により応用と効果の範囲を大きく広げ、増やすことができる。

納入品の範囲：コントロールユニットと小型マグネトープ（1.5.1 参照）。その他にもオプションによる治療用付属品が用意されている。

1.5.1 マグネトープ

マグネトープはコントロールユニットから発生する治療用信号を送信するために使用する。（接続：差込みソケット／コントロールユニットの右側にある“OUTPUT”）

2.0 技術的詳細（Technical details）

寸法(コントロールユニット)	約 266mm×180mm×106mm
重量(コントロールユニット)	約 1,600g(マグネトープを除く)
電源	3.4Ah(アンペアアワー) 内臓式蓄電池(保守不要、密閉)。 フューズ 1AT、5×20mm(スペアヒューズ 2 個付属)
消費電流	平均約 26 から 70mA の間(周波数により異なる)。 平均すると、十分に充電している蓄電池では 15 分間の処置が 80 回実施できる。
磁気誘導	マグネトープから 0m における“ポジション 10”で約 11 μ Tesla

手動周波数選択 (MAN) と自動周波数走査 (AUTO)。“AUTO”における周波数走査は 1 kHz から 1Hz までで約 7.5 秒、100Hz から 1Hz までで約 5.2 秒。

MEDISEND super にはいかなる危険性素材も含まず、使用寿命終了後は電気製品廃棄物として処分できる。

2.1 納入品の保証範囲（Guarantee—scope of deliver）

コントロールユニットと付属品は製品の使用目的に適う利用を前提として、購入日から 2 年間は完全保証をする。

装置を解体してはならない！

装置の解体をした場合は自動的に全てのクレームと保証の権利を喪失する。

納入品の範囲：自動充電器付きコントロールユニット、マグネトープ、使用説明書。

その他の付属品は全てオプションである。

2.2 使用上の注意（Precautionary measures）

- ・磁気ストライプを有するホメオパシー薬品、検体、チェックカード等は消去されることから、マグネトープあるいはマグネトリングを装着し、スイッチの入った装置の近くにそれらを置かない事。
- ・治療中においては、セラピストはマグネトープやマグネトリングから少なくとも1 mの距離を保持する。この距離を保つことにより生理学的な範囲に相当することとなる。
- ・装置を可燃性素材の近くに置かない事。
- ・装置と付属品は湿った布および刺激の少ない石鹸で清拭する。
- ・MEDISEND super を液体、火炎あるいは熱に触れさせない事。
- ・注意！
電磁波干渉（electromagnetic interference（EMF））のある環境中で操作すると MEDISEND super の有効信号が歪められる。

注意—使用禁忌

次のような患者には使用しない：ペースメーカーを装着している心臓病患者、心不全（心臓虚弱／心筋虚弱）患者および妊娠中の女性

当然のことながら、MEDISEND super はすべての症例や患者に有効であるということは期待できない。MEDISEND super を反復使用することは有用ではなく、より深く内在する原因を検査し、処置しなければならない。

マグネトープのプラスチックに対するアレルギー反応の危険性（望ましくはないものの認めざるを得ない）を避けるため、皮膚に直接接触しないようにしなければならない。このことは全ての治療用具にあてはまることである。

2.3 機能点検 (Functional checks)

LED ランプ（“BATT” 表示の下）が点灯しないが？

原因 : 蓄電池が完全に放電している

対応 : 蓄電池を再充電する

“ON/OFF” ボタンを押しても装置が作動しない

想定される原因

1. 背面のメインスイッチが“CHARGE”の位置にある

対応 : メインスイッチを“OPERATE”の位置にする

2. 内蔵されているフューズが茶色を呈している

対応 : 新しいフューズに替える

3. 蓄電池が完全に放電している

対応 : 提供されている備品で蓄電池を再充電する

蓄電池を12時間再充電しても、装置が不調の時は、弊社に連絡すること。

装置を分解しないこと！

装置を分解した時は、全てのクレーム及び保証を求める権利を自動的に喪失する。

装置を床に落としたよう時、装置がなお電磁気信号を発しているか、あるいは“MAN/AUTO”、“MODULATION”及び“RANGE”の機能が維持されているかをチェックする方法は？

検査方法：手にしたラジオを“MW(中波)”に合わせ、内蔵されているアンテナの近くに治療用ループを置く。本装置のスイッチを入れ、“START”ボタンを押す。これにより、送／受信の原理に従って周波数走査、単一の低および高周波数、治療感覚サイクル(変調)の音が聞こえる。

3.0 治療計画—機材の設定 (Therapy plan—equipment settings)

問題としている治療処置に応じて、機能キーによって **MEDISEND super** を設定する (1.2 “装置概要”、1.3 “機能設定” を参照)。下記の治療計画は7欄から成る。左欄から右欄に向かって作業をし、患者に特異的な治療処置に向け **MEDISEND super** を設定する。特定された治療計画は、個々の患者について検査を行った後で設定すると同様、特定の治療処置に対する装置の設定記録ともなる。

座位または横臥している患者に対してマグネトループあるいはマグネトリングを使用する。

“MAGNETO-LOOP” 欄 :

マグネトループあるいはマグネトリングを置く部位を記入する。

“MAN/AUTO” 欄 :

自動周波数走査 (AUTO) か単一周波数 (MAN) のいずれを行うか。

“MODULATION” 欄 :

MODULATION スイッチがオン (5s/5s) か、オフ (CONST) のいずれかを記入する。

第1ステップ (=7.5分) および第2ステップ (=7.5分) 欄 :

各ステップに自動周波数走査または単一周波数のいずれを選択し、設定する

かを示す。1 治療ユニットは 15 分である。

コントロールユニットは第 1 ステップと第 2 ステップ間の音響信号による。この時に装置を第 2 治療ステップに設定し、マグネトループを回転させる。マグネトループを回転させることは、治療プロセスを最適なものにすることが実験によって明らかにされている。特定の患者に対して、特異的な単一周波数(例えば免疫系の低下では：第 1 ステップ=10.0Hz/第 2 ステップ=230.0Hz)を設定し、さまざまな生理学的検査法(例えば、NOGIER による RAC/VOLL に従った電気鍼療法/フリッカーマーキングテスト(flicker merging test) /バイオテンソール (biotensor))を適用することにより、治療担当者はその患者に対する治療処置を最適なものとする事ができる。

このような生理学的検査の付加により患者に適した治療周波数と治療期間が正確に検討できる。

“INTENSITY” 欄

磁界強度は “1” か “10” かのいずれかを特定する。

登録者の治療計画/記録様式

治療処置	マグネトループ	MAN/AUTO	MOD	1. step	2. step	Intensity

4.0 自然磁気 (Natural magnetic fields)

自然界では強い磁気は発生せず、天然の磁鉄鉱(マグネタイト)ですら微弱な磁気を示すだけである(最高でも数ガウス)。実際、自然の交番磁界は非常に弱い；それらは速やかに変化する。従って、交番磁界はファラディの法則の条件を満たし、植物性神経系において微小電位を誘導する。

これの望ましくない側面は事実、過敏現象から気候まで多くの人に知られている。遠方の気候事象の信号は光の速度にも追いつく可能性がある。このようなことは当然、過敏な人々に苦痛をもたらす原因となる(例えば、アイスランドにおける暴風雨抑うつ症)。

このようなシグナルはアトモスフェリクス (Atmosferics) あるいはショートオブスフェリクス (short of Sferics) と呼ばれ、雲の中で小規模な雷雨や激しい雷雨の際に発生する。これらは静的に進行するため、完全に乱調となり、生体固有のリズムと共鳴することがなく、むしろ、植物性神経系の混乱状態をもたらす。スフェリクスは(低周波数磁界のように)非常に透過能があり、容易には隠蔽できない。これらは強化コンクリート建造物でも低減はするものの、それを透過する。

スフェリクスは地球表面とヘビサイド層との間で発生する周期的な共振現象でもさまざま

まな態様を呈する（電離層の下限は高度 100km である）。このため、これらは第 1 図に示すシューマン周波数と呼ばれている。

4.1 シューマン周波数 (Schumann frequencies)

地球表面は高度約 100km の電離層で囲まれている。楽器(例えばバイオリン)は周期的共振現象である、いわゆるシューマン周波数はこの巨大空洞の共振現象として発生するものであり；これを発見した物理学者シューマンにちなんで命名された。

基本となる周波数は 7.8Hz である。ヒトの脳の主要指令器官である海馬 (Hippocampus) / 視床下部 (Hypothalamus) は 7.8Hz と同じ周波数に共振する；ヒトの脳において注意行動や集中能にとって重要な部位である。

偶然の一致かあるいは進化なのか？

4.2 地磁気周波数 (Geomagnetic frequencies)

別なこととして、地核には 64 種の元素が存在し、これらはいわゆる“微量元素”として重要である。個々の微量元素は特異的な振動型式を有している。地球の磁界にはこれらの振動型式も含まれている。振動型式の受信はいわゆる“変調 (modulation)”と呼ばれている。この変調した地球磁界は地磁気周波数 (Geomagnetic frequencies) と呼ばれている(第 2 図)。

地殻中にも、ヒトの赤血球と同様に必須ミネラル物質(“微量元素”)が存在する。相互の関連性はほとんど同様である。

シューマン周波数と地磁気周波数の不均衡な関係は生体にとって弱いストレスを意味する。例えば、NASA の W. Ludwig 博士の研究に基づき、有人衛星の中にはシューマン周波数と地磁気周波数の発生機が据え付けられている！数千年前に古代中国の医者には次のようなことがすでに知られていた；“ヒトは少なくとも 2 種類の環境からの信号、即ち、バランスのとれた、天空からの陽信号 (Yang signal) (シューマン周波数)と地上界からの陰信号 (Yin signal) (地磁気周波数)を必要とする”

4.3 太陽光周波数 (Solar frequencies)

最後に、3 番目の重要な自然の線源があり、それは太陽から発生する。太陽は光を発しているだけでなく、紫外線から X 線に亘る強い広域スペクトルの周波数を送り出している。このスペクトルから、超短波の中の特定周波数は、細胞の元素と共振するものとして生物中に存在する。これら 3 種類の自然のシグナルが注目されるのは、人類は進化の過程でこ

れらに適応してきているということである。人類はこれら 3 種を全て引き金シグナル（いわゆる“生物学的基準（Biological norm）”として必要としている。

今日、これらの自然シグナルは一方では弱められ、他方では技術的な送信によって補われている。減弱化は建築物の影を一度通過すれば起こり（周波数が高いほど光照射野の減衰が強まる）、他方、地下水は昔の分岐点とは反対方向に傾き、このため土壌の電気伝導度は悪化している（流れの直線化、企業による地下水の汲み上げ、廃水の運河化、アスファルトによる舗装など）。

W.Ludwig 博士が開発した磁気治療装置のみが、生物学的に活性のある電磁場を発生させるということは重要なことである！この装置による電磁場は自然発生エネルギーを正確に再現し、正しく関連付けている。64 種の必須微量元素の周波数波を独自の方法で発生させている。

弊社の磁気治療装置には特殊なアンテナが付けられており、工場での前処理と活性操作の後、コイルを介して周波数が発信される。製品の矢印マークを見てほしい。これは国際的な商標でありまた、高品質の証明である。

4.4 バイオエネルギー振動は予防と治療効果を有する (Bioenergetic oscillations have a preventive effects and healing effect)

医学、特に自然医学において、病的状態とは“調和のとれていない(disharmonious)”状態といわれ、健康な状態は“調和がとれている (harmonic)”といわれている。体が調和のとれたシグナルを受ければ、生体はそれに反応し、自然治癒プロセスが開始される。

W.Ludwig 博士が開発した磁気治療装置は、生物エネルギー的に極めて重要な調和波を発生させる。

人体の振動は自然環境の振動と共鳴している。ヒトや動物はこれらの調和のとれた波長の特性和利用し体内のプロセス—代謝、ホルモンバランス、自律神経系などをコントロールしている。

調和のとれた振動は自己治癒能を支援する。